

# 東北フィールドワーク通信

in 石巻



「『私の故郷・石巻へようこそ』 最近、ようやくこう言えるようになりました…」語り部・高橋さんのお話が胸を打つ



震災前の町を3Dプリンターで再現

語り部と歩く3・11

被災地・石巻に降り立った私たちを迎えてくれた「がんばろう！石巻」の看板。側に建つ『南浜つなぐ館』では、震災2年前の町並みを3Dプリンターで再現した模型や、VRで震災直後の様子を体感できるような展示があった。

ここ南浜町では539名が亡くなり151名が現在も行方不明とのことで、訪問前日には祈念公園整備工事の着工式がおこなわれ、3年後に完成予定のことだった。

震災の経験を風化させないよう、最新技術を駆使して次の世代につないでいくとする取り組みを体験させていただき、メンバー全員で使命を再確認し合った。(植木)

高橋さんの表情が脳裏に焼き付いて離れない。「明日が来ることの方が奇跡。だからこそ、ここに皆と生きている『今』を大切にして欲しい」廃校となつた母校・門脇小学校を背に、お母さんの大好きだった校歌を歌つてくださつた高橋さん思いの『バトン』を、私たちは受け取つた。(佐藤・芳村・福田・大松)

南浜つなぐ館

黒澤健一さんのお話  
黒澤配管工業にて

あなたのが郷はどこですか?』という問い合わせから始まつた1時間。ここ南浜町の出身で、ご両親を津波で亡くされたという高橋さんのお話を聞きながら「もし自分の故郷が一瞬のうちに津波で跡形も無くなつてしまつたら」と想像すると、背筋の凍る思いがした。

高橋さんが語つてくれたさる当時の様子を伺いながら南浜町『だつた場所』を歩く。一面に生い茂る背丈より高い葦の根元には、津波で流された服やプラスチックが今も残つていた。

この木材や瓦も、元は私たちの大切な故郷の一部。だから『がれき』とは呼べなかつた」と語る高橋さんの表情が脳裏に焼き付いて離れない。

なぜ「がんばろう！石巻」の看板を作つたか。店も失つて絶望しかなかつたけど、少しでも希望をついたかった。自分も震災に負けたくなかった。店は「近所の人を励ましたけど、少しでも希望を送り続けたい」との強い一念からだつた。「人の力で、思いを形にして伝えることが一番大切」と感じたことを、今度は私たちが「伝える」責任を担うのだと決意できた

選択を迫られる場面を想定しYES・NOで答えていくもの。今回は津波災害の経験に基づいた石巻版を体験し、「なぜそのように考えたか」を話し合い、多様な価値観をシェアするとともに、災害が起る前から考えておくことの重要性に気づかされた。「災害対策を究極的に言うと、家庭の中で命を救う活動ができるかどうか」と言っていた黒澤さんのお話に、私たちもしっかりと行動に移せるよう家族と話し合つておくことが大切だと感じた。(齋)

なぜ「がんばろう！石巻文化会館に着いた私たちを、地元の方々が大勢出迎えてくださる。笑顔を届けようと思つていたのが、逆に笑顔をいたい形となり、その温かさに胸が熱くなる。「花は咲く」「負けじ魂ここにあり」を合唱した時、一緒に口ずさんでくださつて、初対面なのに会場にいる全員の気持ちが一つになつたよう。感じられ、とても嬉しく感じられた。(仙田)

# 東北フィールドワーク通信

in 東北大学



《エコラボ見学》

会場は  
CO<sub>2</sub>  
の排出  
ベート  
デイ  
を減らす最新技術と、日本  
の伝統建築の技が共存  
するエコラボ。エコ+コ  
ラボの意味を持つ。室内  
のわずかな風や屋根から  
落ちる雨水を利用した発  
電、太陽光パネルを利用して  
電力を自給してい  
る。図らずも東日本大震  
災の際には留学生支援セ  
ンターとして活用される  
など災害時に有効なシス  
テムとして見直され、宮  
城県内外に広がりを見せて  
いる。(芳村)

はじめに環境科学研究  
科の和田山教授から「デ  
ィベート・視点の置き方  
と相互関係」と題した講  
義があり、「テーマが同  
じでも、視点が異なれば  
全く違う結論になる」と  
して、ディベートでは「他  
人がどう考えているかを  
理解した上で自分はどう  
考えるかを主張しなけれ  
ばならない」と教えてい

## 環境科学研究九科 『環境問題をディベートで考える』

ただいた。

次に1、4班が「既存の原子力発電所は積極的に再稼働すべきである」に再稼働すべきである」との論題でディベートをおこなった。原発の再稼働ではコスト、電力供給の安定性、再生可能エネルギーの可能性などをC0<sub>2</sub>の地下貯留ではコスト、安全性、将来性などがそれぞれ争点となり、活発な議論がおこなわれた。結果はいずれ勝利したが、様々な視点から物事を学ぶ貴重な機会となつた。

(大松、植本、好井)

《水環境システム学》 水文学全般が研究対象で、特に地の利を生かし理学実験用の大きな水路があり、学生実験によく使われていることでも興味が湧いた。(好井)

《新エネルギー変換工学》 「白い光」と言つても一種類ではない。それを応用して太陽光発電の効率を上げる研究をおこなっている。東北大学では「工学部とは発見し発明するところ」と定義し研究に取り組んでいる。(石崎)

《災害科学国際研究所》 最後に訪問した災害科学国際研究所は、東北大學生が東日本大震災のエリニアにある国立の総合大学として、防災と復興に役立つ研究をおこない、その情報を世界に向けて発信していく使命があるとして設立された新しい国際研究機関である。

ここでは「自然災害と「ビルダック・ベター」とは、「仙台防災枠組み」の中に全会一致で採用された「復興に当たっては、その地域が元々抱えていた諸問題のも合わせて解決していくけるような形を目指すべきである」という考え方のこと。

まず「災害復興の国際事例—2013年台風ヨランダ後のタクロバン市の復興について」と題し、石巻とタクロバンを比較し「よりよい復興とは」について考える振り返りをおこなつた。このワーキングショップを通じて得た経験は、次なる大災害の際、きっと役立つことだろう。(石崎)

では「緊急対応」「復旧復興」「(次に起くる災害に向けた)被害軽減」「事前予防」の4つの段階が1つのサイクルとなって繰り返されていくことを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュレーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキングショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくこ

となどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくことなどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくことなどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくことなどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

ショップを通じて得た

経験は、次なる大災害の

際、きっと役立つことだ

う。(石崎)

では「緊急対応」「復旧

復興」「(次に起くる災

害に向けた)被害軽減

」「事前予防」の4つの段

階が1つのサイクルとなつて繰り返されていくことなどを学んだ。

その後、タクロバン市

の復興で実際に問題となつた事例を『クロスロード』の形式で体験するオ

リジナルの『復興シミュ

レーションゲーム』をおこなう。

最後に、昨日訪問した

石巻とタクロバンを比較

し「よりよい復興とは」

について考える振り返り

をおこなつた。このワーキング

# 東北フィールドワーク通信

in 仙台二華中学校・高等学校



フィールドワーク最終日となつた22日、平成26年度に文部科学省よりSGH1期校として認定された仙台二華中学校・高等学校を訪問し、交流会をおこなつた。

最初に、仙台二華高校の小金先生より仙台二華が目指す人物像

主な取り組みは課題研究、フィールドワーク、言語活動の3つ。中でも『世界の水問題』をテーマとして、地元・北上川に始まり、タイ・ベトナム・ラオスなどのメコン川流域にある東南アジアの国々でおこなうフィールドワークでの実地調査には力点が置かれている。

また、模擬国連やケースメント用語活動を通して、より現実的な水問題の解決方法を探り、それを当事者や関係者に効果的に伝えることを目標にしていること。(仙田)

**SGH生徒交流会**

「そこに生きる人びとに共感を覚え、将来自分が行動するときに困難を抱えた人びとの視点に立て行動することができる人物」と、課題研究の取り組みについて説明があつた。



次に、双方の生徒代表がそれぞれ挨拶した後、1年生が関西創価高校を紹介するプレゼンテーションをおこなつた。仙台二華生も興味深く聞いてくれ、「群読コンテストって、どんなことをするんですか?」などの質問も飛び出しながら、和気藹々とした雰囲気に。

その後、関西創価と仙台二華の2年生が、それぞれ取り組んできた探求活動の成果をまとめたポスターを囲み、ポスターセッションをおこなつた。

最初は初対面ということもあり、互いに遠慮がちだったが、次第に活発に質問が飛び交うようになつた。最後には打ち解け合い、名刺を渡して連絡先を交換する姿もあちこちで見られた。(今元)

ランチミーティングで話したり、大阪でのおすすめ観光スポットや東北フィールドワークではどんなことをしたかなど、いろいろな話で盛り上がつた。

交流会は全部で2時間余りに過ぎなかつたが、すぐに打ち解けあうことでき、あつといいう間に時間が過ぎていつた。

この交流で築いた友情をこれからも大切にしていきたいと思うし、ここで受けた刺激を4月から始まる次の探求活動に活かしていくこうと決意することができる、本当に良かつた。(福田)

